



平和の鐘を鳴らす吉田さん（中央）ら元隊員

平和を祈り 鐘高らかと

■平和の鐘を鳴らす集い

平和の鐘を鳴らす集いが8月15日、牧之原コミュニティセンターで開かれました。終戦記念日に旧日本海軍の練習航空隊「大井海軍航空隊」の基地があった同センターに元隊員が集まり、戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代に伝えてほしいと当時の状況を涙ながらに訴えました。子どもたちは、元隊員と「平和の鐘」を鳴らし、当時食べられていたすいとんを一緒に食べました。

戦争を考え平和の尊さを伝える

■平和学習展

平和学習展が8月8日から15日まで、さざんかで開かれました。平成22年に制定した「核兵器のない世界を目指す平和都市宣言」を広め、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えることを目的に開催。毎日行われた読み聞かせでは、市内6つのボランティア団体が交代で、手記や絵本などを朗読。ボランティアによる感情のこもった語りにより、来場者は聞き入っていました。9日と13日には、戦時中よく食べられていたすいとんの試食会も行われました。



絵本の朗読を行うボランティア団体

宝くじ助成で祭典の備品を整備

■財団法人自治総合センターコミュニティ助成事業

大沢区では9月、宝くじの社会貢献拡大事業として、財団法人自治総合センターが行う「コミュニティ助成事業」を活用して、祭典で使用する備品を整備しました。整備した備品は、大太鼓、ちょうちん、発電機、かき氷機、CDレコーダー、物置などの10品目です。この事業により、子どもからお年寄りまで楽しむことができる祭典が継続され、伝統文化の保存継承を深め、地域に密着したコミュニティ活動の活性化が期待されます。



整備された大太鼓やちょうちん、発電機などの備品



川面を静かに流れる灯籠。幻想的な世界が広がる

幻想的な光に願いを託す

■さがら灯ろう流し

さがら灯ろう流しが8月15日、萩間川の湊橋付近で行われました。地元有志でつくる「さがら灯ろう流しの会」が一昨年、地域の行事を後世に伝えたいと23年ぶりに復活させたもの。辺りが暗くなると、「恒久平和」や「家内安全」などの願いが書かれた約470個の灯籠が川の両岸から流され、来場者は幻想的な光の帯を見つめていました。灯籠の売り上げの一部は、義援金として福島県南相馬市へ送られます。



高齢者を車いすに乗せて高台へ避難する住民（静波一丁目町内会）

巨大地震に備え地域で連携を

■総合防災訓練

総合防災訓練が9月1日、市内全域で開催されました。「自らの命は自らで守る 自らの地域は皆で守る」という、市民の防災意識や災害に対する知識、災害対応能力を高めるために行われたもので、約1万5千人の市民が参加。巨大地震が突然発生し、震度7の地震を観測、その数分後に巨大津波が襲来した想定で行われました。地震発生時の同報無線の後、市民は高台への避難や高齢者など要援護者との避難を行い、各自主防災組織は資機材や備蓄品の確認、消火訓練、炊き出し訓練などの実践的な訓練を行いました。

夏の商店街を活性化

■さがら・夏・夢舞台2013

さがら・夏・夢舞台2013が8月2日に大沢公園で、3日に本通り商店街で行われました。商店街の利用者や地域住民へ日ごろの感謝を伝え、商店街の活性化を目的としたもので、大勢の若者や家族連れで賑わいました。大沢公園では恒例の移動ふれあい動物園が今年も開設され、来場者は30種類以上の動物と触れ合いました。本通り商店街では、市内各小学校のよさこいソーランや大道芸人のパフォーマンスが繰り広げられ、商店街を盛り上げました。



よさこいソーランなどを披露する牧之原小の児童



火や煙と格闘しながら飯ごうで米を炊く児童

この経験が自分の自慢に

■細江小学校じまん塾「サマーキャンプ」

細江小学校じまん塾「サマーキャンプ」が8月3日、4日、同校で開かれました。縦割りでの共同生活を通して、児童の自主性や社会性を育て、良好な人間関係の構築を目指すために毎年行われているもので、1年生から6年生の希望者約180人が参加しました。児童らは学年を超えて仲間と協力し合い、宿泊するテントを設営したり夕食のご飯を飯ごうで炊いたり、率先して自分たちで考え、行動していました。



広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎0052 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp